

第11回ひょうご水土里のふるさとフォーラム

主催 兵庫県、兵庫県多面的機能発揮推進協議会、水土里ネット兵庫



「持続的な活動体制づくり」組織の広域化」をテーマに行われたハネルデイスカッション。いずれも兵庫県公館

農業は米や野菜などの食料を生産するだけでなく、生活にさまざまな恩恵をもたらしている。水田に雨水を貯留し、下流の洪水を防ぎ、多様な生きものを育む。そうした観点から農地やため池、水路などの保全への関心が高まっている。農地の景観や生きものを守る活動が、地域内外の人を結び付ける効果も生んでいる。「第11回ひ

ょうご水土里のふるさとフォーラム」が、2018年12月18日に神戸市内で開催された。国土や自然環境の保全、良好な景観形成などの地域活動を支援する、農林水産省所管の「多面的機能支払交付金」を受けて活動する組織などから約500人が集まり、持続的な活動体制づくりに向けた、活動組織の広域化をテーマに意見が交わされた。

広域化進め 農村活性化

中央大学経済学部准教授
江川 章氏

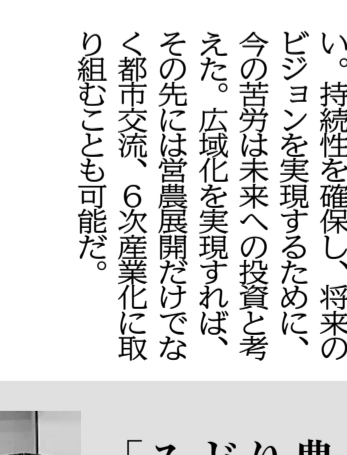
基調講演
近年、地域振興を推進するため、集落などの広域的な再編が行われている。世界遺産の選定基準に「あるひとつの文化、または複数の文化を特徴づけるような伝統的集落」がある。岐阜県白川郷や長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産などがそれだ。集落の意義が評価されて

広域的な組織形成の意義と課題

弱体化の危機
連携し解消へ

2000年代には市町村合併などによる広域的な組織が必要だ。集落再編の動きは1980年代から始まった。80年代には「地域活性化」、90年代には「地域づくり」、2000年代には「地域再生」、10年代には「地域主権」「地方創生」などの言葉が生まれた。

2000年代には市町村合併などによる広域的な組織が必要だ。集落再編の動きは1980年代から始まった。80年代には「地域活性化」、90年代には「地域づくり」、2000年代には「地域再生」、10年代には「地域主権」「地方創生」などの言葉が生まれた。



■コーディネーター
星野 敏氏 (京都大学大学院教授)

■パネリスト
上田 力氏 (養父市、高柳広域水土里会)
矢野尾清佑氏 (同上)
小島 昭則氏 (豊岡市、コウノトリ育むろっぽう)
田村 寛氏 (南あわじ市、八木地区農地・水・環境保全向上対策協議会)

■コメンテーター
江川 章氏 (中央大学経済学部准教授)

■ナビゲーター
谷 五郎氏 (ラジオ関西パーソナリティ)



背景に危機感
谷 広域化したきっかけは、成功している地域が身近にあれば、誤解が解けるだろう。

田村氏 運営の工夫 集落負担減 矢野尾氏 事務システムで効率化

田村 危機感行動の原動力だ。個々の思いを形に結びつけるには組織の力が重要。行政組織は具体的な情報を豊富に持っている。地域に適したアドバイスをしてほしい。

小島氏 若手ら「草刈り隊」結成 竹中氏 営農を地域挙げ下支え

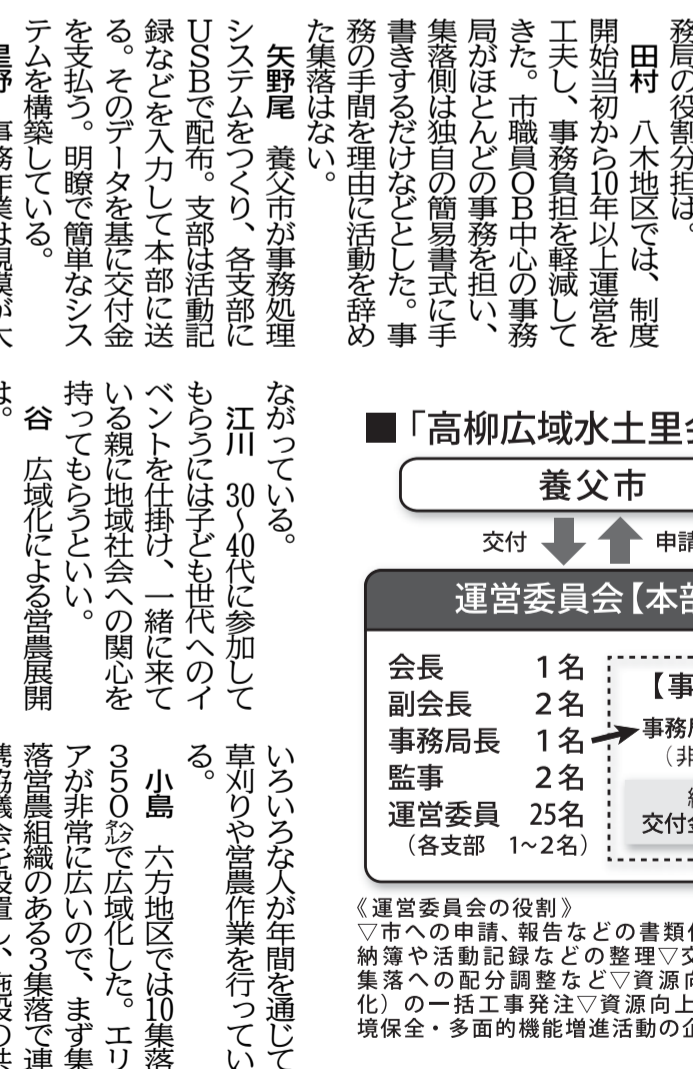
小島 非農家を巻き込んだ新たな体制づくりは、小島 中谷農事組合法人を設立し30年、草刈りを組合員に割り当てた。高齢化も進み、このままでは続かないため、若手会議のアイデアで地域に声をかけて草刈り隊をつくった。25人集まり、非農家のメンバーもいる。若手はアルバイト感覚で参加してくれ、非農家への活動の広がりにもつ

谷 広域化は各集落単位の活動が基本。事務局を置いて事務作業を行うことで、各集落の負担を軽減し、連携を強化する持続的な活動を行う。集落ごとのアイデンティティは保たれていることを押さえておきたい。

上田氏 自治協議会土俵に実現 大柳氏 活動組織は現行のまま

上田 高柳地区では農家の高齢化などの危機感が背景にあった。各集落での活動も事務処理が難しく、後継者の育成が難しい。一集落では交付金が少ないのも課題だった。そこで市主導で、自治協議会単位で広域化を進めた。自治協議会という大きな土俵があったから可能だった。

「高柳広域水土里会」の運営体制



「みどり豊かなふるさと大賞」受賞者決定

「みどり豊かなふるさと大賞」は「多面的機能支払交付金」を受けている活動組織のうち、特に優れた取り組みを毎年表彰している。本年度、最優秀の知事賞を受賞した「行重農地・水・環境組織」(姫路市香寺町行重)は、同市北部に位置する集落で、78戸中農家が59戸、高齢化率は44%を超える。「住みよい環境・楽しい農業づくり」をキャッチフレーズに非農家を含めた地域ぐるみの体制で活動。ため池や水

路などの管理に取り組んできたほか、地域の歴史を記した冊子づくりも手掛けた。また、株式会社アグリ香寺や若手農業者による地域農業の活性化にも力を入れている。代表の神崎茂樹さんは「これまでの活動で共同作業の意識が浸透し、農地やため池、水路の状態を良好に維持できるようになった」と語った。委員賞には、洲本市の「南農地水環境保全隊」(豊かな農村環境づくり部門)▽神戸市の「生野活動組織」(地域づくり部門)▽加西市の「豊倉町資源保全隊」(環境創造型農業部門)▽猪名川町の「柏原地域資源保全隊」(地域農業活性化部門)一の4団体が選ばれた。



最優秀の知事賞を受賞した「行重農地・水・環境組織」(姫路市香寺町行重)の事例発表